

中学校1・2年生は
こんな時期です



学習時間の
めやす

100~120分

「育ち」や「学び」の特徴

いわゆる「思春期」(大人への入り口)といわれる時期です。

- 心と体の成長がアンバランスになりがちで、不安や悩みを抱えやすくなります。
- 家族に依存したいという気持ちと、家族から自立したいという気持ちが混在します。
- 矛盾する大人の態度に反抗的になります。また、仲間や友だちの影響を強く受けます。
- 他人から見た自分を意識し、比べて落ち込んだり、無理に合わせようとしたりします。
- 中学校生活を有意義に過ごすためには、部活動との両立が大切です。
- まだ未熟ではあるものの、大人と同じような思考ができ、頼りがいが出てきます。

学校での学習内容の特色

授業の内容が大きく変わります。

- 教科ごとに先生が変わることに加え、小学校で学習する内容に比べ質・量ともに、ずいぶん違ったものになります。
- 自分から課題を見つける家庭学習に変化していきます。
- 最初は与えられた課題から、やがて勉強方法や内容を工夫して、何をするか自分で考え、決められるようになることが大切です。



家庭学習の コツ! 3か条



1 予習で工夫を! 復習に重点を!

あらかじめ自分で調べたり考えたりして授業に臨めば、課題を見つける力もつきます。また、その日のうちに教科書やノート、プリントを使って学習のポイントを整理し、思い出すように働きかけましょう。「継続」は「習慣」となり、いずれ「性格」にも影響します。



2 学校(先生)のプリントの有効利用を!

学校のプリントやテストには学習のポイントが整理されています。有効利用するようにアドバイスしましょう。テスト直しをすることは復習としてとても重要です。また、答案用紙も残しておけば、間違っポイントも分かり、復習にも役立ちますこれこそが理解の近道です。間違えた問題はチャンスとして生かしましょう。



3 「急がば回れ」の気持ちで!

問題に取り組んでいてわからない時は、わかるところまで戻ってやり直すとともに、間違っところは必ず見直すことが大切です。先生に相談することもよいでしょう。学習課題をやりきったという達成感と自信がさらなるやる気を起こします。

親子で
確認

ワンポイント アドバイス



中学校
1・2年生 家庭学習
こんな内容・方法で

- 「毎日何時間勉強する」「毎日教科書(問題集)を何ページする」など具体的な目標を立てよう。
- 学校の時間割に合わせて、予習復習の計画を立てよう。
- 毎日決まった場所で決まった時間に決まった教科を勉強しよう。

国語

- はっきりと声に出して教科書を読みましょう。繰り返して読むことが大切です。
- 漢字は何回も書いて、確実に覚えるようにしましょう。
- 意味の分からない語句は国語辞典で調べて確かめておきましょう。

社会

- 新聞やテレビで話題になっていることを、自分でも考えてみる習慣をつけましょう。
- 教科書を繰り返し読んで、内容の理解に努めるようにしましょう。
- 学習したことをノートに工夫してまとめてみましょう。

数学

- その日の授業で取り組んだ計算問題をやり直しましょう。
- 教科書に載っている文章題と同じ種類の問題を問題集などを使って解いてみましょう。

理科

- 図やグラフなどの資料を見ながら、なぜそうなるのかを考えるようにしましょう。
- その日の授業で学習したことをまとめたり整理したりするなど、ノート作りを工夫しましょう。
- 自然や科学に関心を持って、テレビや新聞などで疑問に思ったことを調べてみましょう。

英語

- 新出語(句)と基本文は声に出しながら繰り返し書きましょう。
- 教科書で習った本文は、まず声に出して読んでみましょう。読めたら、その意味を日本語で書いて、今度はその日本語を見ながら英文が書けるまで練習しましょう。
- 習った基本文型や文法を用いて、自分に関係のあることから英文で書いてみましょう。
- 映画や音楽、身近な外国人との交流を通して、積極的に英語にふれていきましょう。

授業では、黒板をそのままノートに書き写すだけでなく、自分なりの工夫をしましょう。そうすることでノートを振り返ったときに、授業内容をより思い出しやすく復習に役立ちます。

ノートの取り方 ひと工夫!

たとえば…見やすいように余白を作る 適度に色分けをする
先生の説明を書き加える 簡単な図やイラストを入れる
自分なりの説明や思いついたことを書き加える

長い休みにはこんなことを!

お正月やお盆は遠方の親族や知り合いと話す機会が増えます。都会の様子や仕事の話など、いろんな人の話を聞くことで視野を広げましょう。自分の将来や夢について考えるいい機会です。

ちょっと

この時期の子どもは、友だちとの関係を強く意識し悩むことも多くなります。考えを押しつけるのではなく、子どもの話をじっくりと聞き、子ども自身が解決の糸口を見つけることができるよう、陰から支えましょう。そのためには日頃からなんでも相談できる大人の存在が大きな支えになります。

ちょっと

将来

